

平成 28 年調査結果を踏まえた猛禽類の渡りの  
確認状況等の見直し

(調査結果部分の変更)

iii. 猛禽類の渡り確認状況

①渡り個体数

調査年毎の渡り個体数を表5.5-13(1)～(2)に示す。

9月下旬は、ハチクマ、サシバを中心に渡り個体が確認された。特に平成28年の9月25日は、最大の渡りピークに当たったことから、1日の最大渡り個体数は、ハチクマが596個体、サシバが2,486個体であり、いずれも地点W1でカウントされた。

10月中旬から下旬にかけては、ツミ、ノスリを中心に渡り個体が確認され、1日の最大渡り個体数は、ツミが23個体、ノスリが211個体であり、いずれも平成28年の地点W3でカウントされた。

表 5.5-13(1) 渡り個体数(平成 27 年)

期間	地点	調査日	ミサゴ	ハチクマ	ツミ	ハイタカ	オオタカ	サシバ	トビ	ノスリ	ハヤブサ	チゴハヤブサ	チョウゲンボウ	不明	合計
9月下旬(5日間)	W1	9/23		15	1	1		18	1	2					38
		9/24													0
		9/26		32	2			12		1					47
		9/27		24	2	1		5		1					33
		9/28		28	7			143		14					192
	W2	9/23			7	1	1		21		2				32
		9/24			1										1
		9/26			14	2			16		1	1			34
		9/27	2		31	4		1	45		1				84
		9/28			3		1		11		1				16
	W3	9/23			12	3	1		64		9				89
		9/24							1						1
		9/26			34	9		1	56		6	1			107
		9/27	1		92	24	1	2	44		25	1			190
		9/28			3	2			50		6				61
10月中下旬(6日間)	W1	10/14		1	9	3				3					16
		10/15	1		15	2	1			13					32
		10/16	1	1	9					18					29
		10/23			20	3				115					138
		10/24			22					2					24
		10/25			5	1				2					8
	W2	10/14			7	1			2	4					14
		10/15			2	1	1		3	3					10
		10/16	1		1	1	1			9	1	1			15
		10/23			3				1	68					72
		10/24			3	1				1			1		6
		10/25			7		1			2					10
	W3	10/14			22	1	1			4				2	30
		10/15	1		7	1		1		11	2				23
		10/16			3	1	1			33				1	39
		10/23			18	6	4			34	1				63
		10/24			7					2					9
		10/25			7	7				11					25

表 5. 5-13 (2) 渡り個体数(平成 28 年)

期間	地点	調査日	ミサゴ	ハチクマ	ツミ	ハイタカ	オオタカ	サシバ	トビ	ノスリ	ハヤブサ	チゴハヤブサ	チョウゲンボウ	不明	合計
9月下旬(5日間)	W1	9/25	2	596	18	4	1	2486		16	1				3124
		9/26		7	2			57		3			1		70
		9/27		100	3			100		30					233
		9/28		1				42		1	1				45
		9/30		22	6			179		6					213
	W2	9/25			354				500		33				887
		9/26			3				27						30
		9/27			188				55		15				258
		9/28			10	1			64				1		76
		9/30		2	22	9			274		13				320
	W3	9/25		1	223	3	3		2058		4				2292
		9/26			5	3			64						72
		9/27		1	58	23	1		235		42				360
		9/28				1			45		2				48
		9/30			4	3			64		12				83
10月中下旬(6日間)	W1	10/12			7					32		2			41
		10/13			4					32		2			38
		10/14			4						57		1		62
		10/25				7	2				27				36
		10/26				6	1				12				19
		10/27				17	1				24				42
	W2	10/12				3					8				11
		10/13		1		1				1	46	2			51
		10/14				2		1			18				21
		10/25									25				25
		10/26				13					2				15
		10/27				8	1				5				14
	W3	10/12			6	8					39		1		54
		10/13			6	21			4		211		2		244
		10/14				4					87	1			92
		10/25				23		2			100				125
		10/26				11		1			2				14
		10/27				6	1				67				74

## ②飛翔高度

飛翔高度別の渡り個体数を表5.5-14に示す。レーザー距離計による高度測定は、全体の1.0% (108個体)で行えた。

3地点の合計では、高度Hが最も多く91.8%を占め、高度Mは5.9%、高度Lは2.3%と少数であった。地点別に見ても大きな差はなく、3地点の合計と同様の傾向であった。

表 5.5-14 飛翔高度別渡り個体数

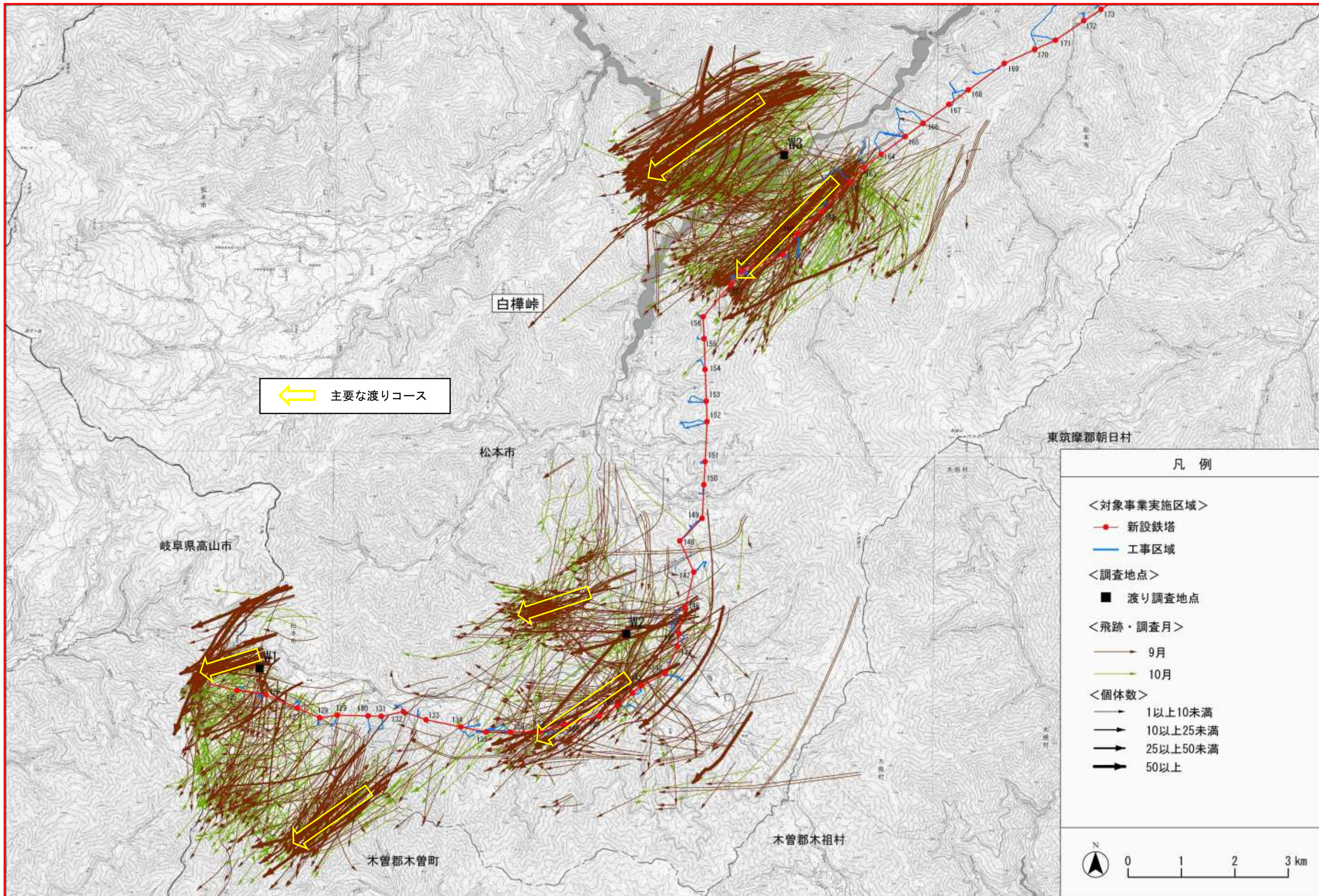
飛翔高度	W1		W2		W3		合計	
	個体数	割合	個体数	割合	個体数	割合	個体数	割合
H	4,112	91.8%	1,866	93.2%	3,731	91.1%	9,709	91.8%
M	234	5.2%	88	4.4%	303	7.4%	625	5.9%
L	134	3.0%	48	2.4%	61	1.5%	243	2.3%

注：飛翔高度は、地表からの高さ60m以上をH、40m以上60m未満をM、40m未満をLとした。

## ③渡りコース

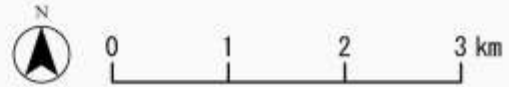
渡りコースを図5.5-7に示す。各地点で南西に通過する渡り個体が確認された。

いずれの地点においても渡りコースに幅があったが、奈川あるいは梓川の谷部では少なく、兩岸の尾根部で多い傾向があった。対象事業実施区域は右岸側の斜面に位置することから、地点W2及びW3周辺では、対象事業実施区域付近を通過する個体も相当数見られた。



← 主要な渡りコース

凡 例	
<対象事業実施区域>	
●	新設鉄塔
—	工事区域
<調査地点>	
■	渡り調査地点
<飛跡・調査月>	
—	9月
—	10月
<個体数>	
—	1以上10未満
—	10以上25未満
—	25以上50未満
—	50以上



(予測部分の変更)

表 5.5-17(8) 注目すべき種の間接的影響予測結果

分類	和名 (科名)	一般的生態	確認状況	予測結果
	猛禽類渡り個体	<p>白樺峠ではこれまで 16 種のタカが確認されている。2001 年の例では、種構成は、サシバが全体の 66% を占め、ハチクマ、ノスリ、ツミを合わせた 4 種で 98% を占めた。多くのタカを記録したのは 9 月 22 日の 7,433 羽で、うちサシバが 6,571 羽であった。サシバとハチクマは 9 月下旬に渡りが集中し、ノスリとツミはほとんどの個体が 10 月に通過し、サンバやハチクマに比べると渡りの期間が長く続く。ミサゴ、トビ、オオタカには明瞭なピークが見られず、調査期間を通して少数の渡りが観察される。ハイタカの渡りピークは 11 月上旬。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 9 月下旬は、ハチクマ、サシバを中心に渡り個体が確認された。特に平成 28 年の 9 月 25 日は、最大の渡りピークに当たったことから、1 日の最大渡り個体数は、ハチクマが 596 個体、サシバが 2,486 個体であり、いずれも地点 W1 でカウントされた。</li> <li>・ 10 月中旬から下旬にかけては、ツミ、ノスリを中心に渡り個体が確認され、1 日の最大渡り個体数は、ツミが 23 個体、ノスリが 211 個体であり、いずれも平成 28 年の地点 W3 でカウントされた。</li> <li>・ 3 地点の合計では高度 H が最も多く 91.8% を占め、高度 M は 5.9%、高度 L は 2.3% と少数であった。地点別に見ても大きな差はなかった。</li> <li>・ 渡りコースには幅があったが、奈川あるいは梓川の谷部では少なく、両岸の尾根部で多い傾向があり、地点 W2 及び W3 周辺では、対象事業実施区域付近を通過する個体も相当数見られた。</li> </ul>	<p>対象事業実施区域周辺において猛禽類の渡りが多数確認され、対象事業実施区域を通過する渡りコースが認められた。建設機械の移動及び資機材運搬の工事車両の走行に伴う騒音・振動の影響により、対象事業実施区域周辺の利用の忌避が生じることが考えられるものの、猛禽類の渡り個体はきわめてわずかな間に通過するのみの個体であること、91.8% と多くの渡り個体の飛翔高度が対象事業の鉄塔の高さよりも高かったことから、間接的影響は小さいと予測される。</p>